

# 令和7年度 学校評価（自己評価） 成果と課題・対策

## （1）学力の向上

▲ 項目④「家庭学習」、項目⑤「テスト等に向け計画的に学習する」の項目において、生徒の評価が低い。

→ レインボーノート（自主学習）を毎日1ページの提出としているが、この活動に家庭学習時間の大部分が費やされているのではないかと考えられる。やることに目的化され、学習内容を身に付けるための取組になっていないことも考えられる。

レインボーノートの取組方等を総合的に確認・見直し及び、帯タイムの時間の使い方も含め、個に応じた支援・指導を行い、生徒が自ら学ぶことができるよう進めていく。

▲ 項目⑥「ICT活用」の評価が低い。

→ 国語科では作文の提出をタブレット端末で実施したり、英語科ではAIを活用した英会話の練習にタブレット端末を使用したりしている。授業において、スライドや動画制作に活用している教科もある。また、生徒は、各教科、総合的な学習の時間や生徒会活動等における資料作成（google スライド・ドキュメント）やアンケート（google フォーム）実施、分析（個人や、グループでの共同編集）を行っている。質問文にある「家庭学習で」の部分の評価している可能性もあり、質問文を含め内容を精査する必要がある。

▲ 項目⑦「めあて」項目⑧「まとめ」については生徒と教師の差がある。

→ 授業の「めあて」と「まとめ」が生徒に届くよう引き続き授業改善を推進し、振り返りの時間に「何ができるようになったか」を確認する。

## （2）心の教育の充実

▲ 項目④「ネット利用」については、生徒と保護者や、生徒と教師の間に差がある。

→ 現在、一貫教育においてテスト期間中にメディアコントロールチャレンジを実施している。また、長崎県活用型情報モラル教材 GIGA ワークブックながさきを用いた情報モラル教育を推進しているところである。

この結果を受け、家庭とも連携を進めるとともに、学級においてもメディアとの付き合い方について継続的な指導を行っていく。

## （3）生活規律の順守

▲ 項目②「時間の意識」③「提出物の期限」が下がった。④「規則正しい生活・健康」の数値が低い。

→ 登校時間については、時間ギリギリに登校する生徒もいるが、校内での生活において時間を守れないということはほとんどない。また、提出物については、学習課題等の提出が遅れることがあり、その点で評価が低いと考えられる。個別に相談を行うとともに、家庭と連携して必要な支援を行っていく。フォーサイト手帳に準備物や提出物について記載させて、自己調整力の向上に努めている。

## (6) 施設・環境

▲ 項目①「環境美化・整理整頓」の生徒、保護者の数値が低い。

→ 委員会活動を通して生徒が主体的に声を掛けあい、改善してきているところである。今後も生徒会活動を中心に、生徒の自治活動が充実するよう指導・支援を行っていく。

## (8) 一貫教育

▲ 項目②「夢・憧れ・志」の評価が低調であった。

→ 小中高一貫の合同行事を実施する中で、高校や高校生への憧れは形成されている。また、学習発表会や模擬議会を成功させ、達成感を味わうこともできた。しかし、これらの体験や学びが生徒自身の将来の夢の実現にどう繋がるのか、実感できていないと思われる。各行事や活動と将来との関連性を明示し、生徒が自身のキャリア形成を意識できるよう支援する。

## (9) 教育方針

▲ 項目「目指す生徒像」生徒の評価が低い。

→ 学校教育目標や目指す生徒像・学校像を集会や行事において生徒に分かりやすく示し、意識付けを図っていく。また、生徒会と連携して生徒たちが日ごろから意識できるようにしていく。学校評価として、一番高い数値を目指すところである。